

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、健全で高潔な社会貢献できる生徒の育成をするために、以下の項目を中心に学校目標を定め、取組みを実施。

- 1 自己を確立し未来を切り開く力を育成。——充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人——
- 2 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成。——学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人——
- 3 人とつながり自らを律する力を育成。——他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人——
- 4 生徒に寄り添い、生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

2 中期的目標

1 自己を確立し未来を切り開く力を育成 → 学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、社会に役立つ人間を育成

(1) 規律ある高校生活の実現

ア 当たり前に登校できる生徒を育成

遅刻件数を令和7年度には学年平均を600件以下にする。(学年平均 R2 1188件 R3 1166件 R4 1227件)

イ **ルールを守る意識の醸成** 生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」を納得させる指導を行う。

懲戒件数を令和7年度には学年平均を5件以下にする。(学年平均 R2 12件 R3 13件 R4 9件)

(2) 部活動と生徒会活動の活性化

ア **「元気な学校づくり」** 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。放課後に生徒の声が響き渡る学校にする。

※令和7年度には、部活動の入部率を30%に引き上げる。(R2 29% R3 21% R4 27%)

イ **学校行事で「人を育てる」** 生徒会が中心となり生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感できるものにする。

※学校教育自己診断において、令和7年度には「学校が楽しい」と答える生徒を85%以上とする。(R2 67%, R3 73% R4 77%)

2 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成 → 【確かな学力の育成】をめざし、自ら伸びる力の育成とわかる授業の創造

(1) 新たな学びに対応したわかる授業の研究 新しい学習指導要領では主体的・対話的な深い学びの視点からの学習過程の改善が求められる。「総合的な探究の時間」を中心に、探究活動を行う。

ア アクティブ・ラーニングの研究・実践

図書室の多目的化を踏まえ、グループ学習などの協働学習の研究を行い、主体的で対話的な深い学びの研究を行い、校内での情報共有の研修を行う。引き続き各年度2校の学校訪問と1回の研修を実施する。

イ 観点別評価に対応した評価基準・規準の運用

令和3年度に策定した令和4年度に検証を行った評価基準を運用し、必要に応じて改定していく

(2) オンラインによる学習支援や授業におけるICTの活用

ア 50分の授業を実施できるような教材の蓄積を図る

(3) 「総合的な探究の時間」を柱にキャリア教育を進め、令和7年度には進路決定率を95%以上にする。(R2 90% R3 99% R4 97.5%)

3 人とつながり自らを律する力を育成 → 多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成

(1) 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながる平野高校を推進。学校行事やビオトープに地域の人たちを招くことで、交流の機会を増やし、共同作業や学習の機会を通して他者を認める力や認められる喜びを育てる。

ア **「ともに学びともに育つ」教育の推進** 支援教育が共生社会の形成の基礎なることから、障がいの有無にかかわらず全ての生徒に対し教育相談主担や支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実させる。SC・SSWとも連携し、「困り感」のある生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。

イ **「地域とともに生徒を育てる」** ビオトープでの交流や福祉の体験活動を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていくとともに平野高校の活動を、中学生や保護者にも広く知らせる。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。地域から認められることにより自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。

(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

ア **「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ** 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。

4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成

(1) 新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

「持続可能な教員力」の育成 変化に対応できる教員力を養うため、生徒をより深く理解する力を高め、校務のスキルアップを図るため、学校経営の中核を担うミドルリーダーや経験年数の少ない教員の育成を図る校内研修とOJTを充実させる。

(2) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。

「教職員の長時間勤務の縮減」 一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。時間外労働時間において、令和7年度には月80時間越えの教員をなくす。(R2 15人 R3 3人 R4 1人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 アンケートは20項目。9項目で肯定率が昨年度を上回った。肯定率の90%以上が「先生は教え方に様々な工夫をしている。」「成績は、テストの得点だけでなく、努力や授業態度などを含めて総合的に評価されている。」「成績不振の生徒に対して放課後や夏休みなどに補習を行い、学力向上につとめている。」の3項目。80%以上は14項目。図書館利用の肯定率が34%で昨年度より8p減。教員減で、十分に開館できていないことが影響していると考えられる。</p> <p>【保護者】 アンケートは20項目。13項目で昨年度を上回った。「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」「学校の生徒指導の方針に共感できる。」「授業参観や文化祭・体育大会など、学校で行われる行事には参加したことがある。」「学校は問題が生じたとき迅速に対応している。」の4項目は10p以上増加。肯定率の90%以上が「学校はテストの得点だけでなく、子どもの努力や授業態度なども含め総合的に評価している。」「学校では子どもに関する個人情報を守られている。」「学校は問題が生じたとき迅速に対応している。」の3項目。80%以上は14項目。「地震や台風等の場合について、生徒や保護者に行動のマニュアルが知らされている。」の肯定率が76%で昨年度より-10p。今後対応が必要である。</p> <p>【教職員】 アンケートは26項目。アンケート項目を変更したため、昨年度との比較は行えず。肯定率の高い項目は、「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。」(94%)、「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。」(92%)、「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。」(92%)。80%以上が17項目。21項目で肯定率が昨年度を下回った。減少幅の大きいのは「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」(-28p)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(-25p)。教員間の連携に課題が見られる。</p>	<p>【第1回】 令和5年7月7日開催 委員：最後の1年生という危機感からか教員の一体感を感じる。教員同士のコミュニケーションはどうなっているのか。物事の見方には損得と善悪の2種類ある。損得だけで生徒に対応していないか考えてほしい。また、チームワークを形成する機会を増やしてほしい。その時は、教員中心に生徒も入れたチーム平野の形成を。 学校：ほとんどの教員が職員室にいる。進路当番などで仕方のないところもあるが、準備室にいる教員は少ない。 コミュニケーションはとれている方だと思う。しかし、放課後含め職員室に教員がいる時間は減っているように感じる。 委員：生徒の就職活動において、求人票を見てきめるとあったが教員にはどのように指導しているか？ 学校：生徒も全部の求人票を見るのは大変。興味のあるなしでまず減らす。最終実際に見学に行き決定している。 委員：数ある企業から1社選ぶ。好きなものから教員と選んで入社したが退社することになった。好きと適性があるかは別。会社の名前ではなく、求人票の見えない所、本質で指導してほしい。 委員：見える部分でおすすめは。見ない部分は難しい。 委員：大阪府中小企業家同友会とのやりとりで学んでほしい。 委員：教員採用試験1次の合格発表が今日。チーム学校という言葉をよく聞くようになったが、このチームは教員だけでなく地域、PTAも含まれる。教員が減っていく中で校内だけではしんどい。活用できるものは活用する。そして、生徒も減っていく中で、今まで通り行事を実施することは困難。道筋をしっかりと考えていく。活動できるように準備していく。最後の学年がよかったなと思って終われるようにしてほしい。</p> <p>【第2回】 令和5年10月11日開催 委員：子どもたちに寄り添って教育されている。多くの平野高校生が本校の前を通るが、良い顔をして学校の前を通っていく。来賓として式典に参加する中で、若い先生が生徒と一体となってがんばっている。市内の小中学校長と小中学校ももっとがんばらないといけなさと話をしている。いろんなことに粘り強く見捨てずに指導してくれている。 委員：3年生は卒業後の進路に向けてがんばらせることになるが、進学、就職の枠に当てはまらない生徒はどれくらいいる？ 学校：前向きではないフリーターは今のところいない。一次合格率は高い。生徒の頑張りはもちろんあるが、企業の人手不足も理由としてある。求人数も過去の中で一番多い。 委員：学校のことは家で話す。先生のことを多く話す。特に下の子は先生のことを気にしている。先生が変わることへの不安など。 委員：教育実習の関係で中学校を回ることが多い。今の中学生は大人しく見える。A市の中学校で昔はそうではなかったが、チャイム前に着席しているのを見ると驚く。しかし、荒れている中学校もある。実習生の授業で平気で喋っている。ただ、ちょっとは知りたいという気持ちがあり、何かとつかりががあれば興味を持つこともある。授業の工夫があれば生徒の受け方が変わるかもしれない。 募集停止になった。今年は3学年が揃っているが、最終的には非常に寂しくなる。学校行事でなにか盛り上げることはできないか？文化祭で同窓会から何かできないか？体育大会で何かできないか？外部から誰か呼べないか？行事を工夫して盛り上げることができれば良いのではないかと。</p> <p>【第3回】 令和6年2月21日（水）開催 ○学年の取組報告に対して、委員より内容等についての質問があった。 委員：通信制への転学希望者が各校で経っていると聞くが、どんな状況か。 学校：数名の生徒がすでに通信制に転学している。また、現在転学を希望している生徒もいる。 ○分掌の取組みに対しても、委員より内容に関わる質問があった。 委員：どのくらいの生徒が、奨学金や教育ローンを借りているのか 学校：教育ローンは学校を介さないで正確にはわからないが1人は聞いている。日本学生支援機構の奨学金は多くの生徒が受ける予定である。 委員：企業でも転職癖のついている人がいる。難しいかも知れないが、あきらめないことの大切さを教えていただきたい。 委員：大学生は、奨学金等については実際に返さないといけなくなってから実感している様子がある。 委員：いじめの要因としては教職員の子どもの関わりが薄いことではないかと言われていた。 委員：今後の学校の中で大事なものは生徒会部。生徒と一緒に何かを作り上げていく。どういった終わり方をしていくのかも大事である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 自己を確立し未来を切り開く力を育成	(1) 規律ある高校生活の実現	(1) ア 当之无愧に登校できる生徒を育成 令和3年度は、欠席は減少したが遅刻が増加した。保護者と連携しながら、生徒自身の自覚を高める。 イ ルールを守る意識の醸成 生徒に寄り添う指導で、生徒が自ら規律を守る力を高めさせる。 また、全校集会等で SNS の適切な利用、及び薬物使用についての啓発を行う。	(1) ア 遅刻件数を学年平均 900 件[1227 件] ・保護者向け学校自己診断で「学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている」90%以上[87%]	(1) ア 欠席数は年々減少しているが、遅刻は増えている。遅れてでも登校しようという意識は高まっている。遅刻した生徒について、保護者連絡や日々の指導は行っているが、件数は増加し 1324 件。 ・保護者向け学校自己診断で「学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている」81%。 (△)
	(2) 部活動と生徒会活動の活性化	(2) ア 「元氣な学校づくり」 部活動活性化を考え、入部率の上昇をめざす。必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導し、部活動の加入率を上げる。 ・個々のクラブ活動の成果を生徒全体で共有する広報活動を強化する イ 学校行事で「人を育てる」 生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事。 ・自ら企画・立案・運営できる設定を考え、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 ・球技大会などの学年行事への生徒の取り組みに工夫	(2) ア 学校生活の情報を年間に 30 回以上 HP に掲載する。 イ 生徒向け自己診断で「学校が楽しい」80%以上[77%] 「学校行事に積極的に取り組むことができる」90%以上[87%] 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」90%以上[86%]	(2) ア 学校のウェブページを 27 回更新。校長ブログ「校長室便り」の更新は 160 回。生徒もよく見ている。(◎) イ 生徒向け自己診断で「学校が楽しい」75%。「学校行事に積極的に取り組むことができる」85% 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」84% コロナ前の形で学校行事が実施できたが、数値は伸びず。 (△)
2 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成	(1) 新たな学びに対応したわかる授業の研究	(1) ア アクティブ・ラーニングの研究・実践 エンパワメントスクールや SSH などの先進校の教育実践から学ぶため、学校訪問を 2 校以上のべ 10 人以上の教員で行う。 また、情報共有のための校内研修を行う イ 観点別評価に対応した評価基準・規準の運用 策定した観点別評価の基準・規準を運用し、1 年間かけて評価を行う	(1) ア 学校訪問 2 校以上、校内研修の実施 イ 生徒向け学校教育自己診断「成績は、テストの得点だけでなく、努力や授業態度などを含めて総合的に評価されている」の肯定率 90%以上を維持[94%]	(1) ア 公開授業等、他校訪問は 3 校 3 人。相互授業見学期間を 1 学期と 2 学期に実施。(○) イ 生徒向け学校教育自己診断「成績は、テストの得点だけでなく、努力や授業態度などを含めて総合的に評価されている」の肯定率 93%。観点別学習状況の評価を含め、評価の在り方についての生徒の満足度は高い。(○)
	(2) オンラインによる学習支援や授業における ICT の活用	(2) ア 休校時等にオンラインで授業が行えるよう教材を蓄積する イ 授業における ICT の活用を一層進める	(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「先生は教え方に様々な工夫をしている」の肯定率 90%以上を維持[91%]	(2) 授業における ICT の活用は進んでいる。 生徒向け学校教育自己診断「先生は教え方に様々な工夫をしている」の肯定率 93%。(○)
	(3) キャリア教育の推進	(3) 「総合的な探究の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路を保障。生徒の進路意識、積極性、自立心を高めさせる。 ・1 年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る（活躍する卒業生や大人へのインタビューの企画・実施） ・生徒就労意識を育てるために、中小企業家同友会と連携する。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施	(3) ア 進路決定率 90%以上[97.5%] イ 就職一次内定率 70%[66%] ウ 図書館利用率 50%[43%]	(3) 進路ガイダンス等の進路行事を計画的に実施。2 月 1 日に 1 年生が例年行っている「大阪府中小企業家同友会の方との交流」を実施した。企業の方から、生徒の聞く態度等についてお褒めの言葉をいただいた。 進路決定率 99% 就職一次内定率 77% (◎) 図書館利用率 34%。開館時間の周知等が十分ではなかった。(△)

		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 ・進路指導部と学年との連携した進学に向けての講習を実施し、学習チューター・学年主任・進路主担・進学主担・就職主担の連携を強化する。 ・自習室管理と自習の計画と運営 ・総合的な探究の時間を中心に、積極的に図書館を活用する方策を考える（調べ学習など） 		
3 人とつながり自らを律する力を育成	<p>(1) 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、地域とつながり平野高校を推進</p> <p>(2) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p>	<p>(1) ア 「ともに学びともに育つ」教育の推進 障がいのある生徒の「個別的教育支援計画」の引継ぎを定着させ、高校での指導に活かす。また、教育相談主担やSC・支援教育コーディネーターを中心に、校内支援体制を充実し、「困り感」を有する生徒の心情に寄り添い、個々の生徒支援に努める。</p> <p>イ 「地域とともに生徒を育てる」 ピオトープでの交流を中心に、地域とのつながりの中で、生徒を育てていく。生徒会活動の更なる活性化の中で清掃活動、挨拶運動など、生徒が主体的に活動できる交流を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣小中学校との交流 ・授業や放課後の福祉施設交流 ・幼稚園や地域住民との交流 ・地域のフェスタへの参加 ・中学生・保護者への広報の拡充 ・平野区との連携 <p>(2) ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題に係る研修を実施し、教職員の人権感覚を高める。 <p>イ 「グローバル人材の育成」 様々な国とのつながりを感じながら、地域で活躍できる人材を育成する。 姉妹校である大成一高校との交流の再開を実現する。または、国際交流に関する取組みを1回以上実施する。</p>	<p>(1) ア 障がい理解を中心とした教員研修を2回以上行う。[1回]</p> <p>イ 教職員向け学校教育自己診断「学校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。」肯定率90%以上を維持[91%]</p> <p>(2) ア 生徒向け学校教育自己診断「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」を90%以上[89%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題に係る研修の実施1回以上 <p>イ オンラインも含め、大成一高校との交流または国際交流に関する取組みを1回以上[0回]。</p>	<p>(1) ア 救急救命講習及び「コグトレ」に係る研修を各1回、計2回実施。(○)</p> <p>イ 例年実施されている隣接する小学校からのピオトープ訪問は希望がなく実施できず。 吹奏楽部が、保育所や福祉作業所、地域のイベント等で演奏を行った。 2月14日に松原市内の小学校で理科の出前授業を行った。小学校の校長先生より「普段授業に集中しにくい児童が、とてもいい表情で参加していた」との感想をいただいた。 平野区とは「ひらの青春生活応援事業」、平野区長と校長の懇談会等で連携を図っている。 教職員向け学校教育自己診断「学校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。」肯定率73%。(△)</p> <p>(2) ア 年間計画に沿って、人権学習等を実施した。 生徒向け学校教育自己診断「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」85%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権課題に係る研修の実施1回。(○) <p>イ 1月25日に(木)に大成一高校から生徒教職員あわせて35人が来校。教員間で次年度に向けた打合せと、生徒どうしの交流を行った。 3学年で留学生を招き交流した。(◎)</p>
4 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成	<p>(1) 新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る</p> <p>(2) 「働き方改革」や健康管理の観点から、長時間勤務の一層の縮減を図る。教職員一人ひとりの意識改革を推進。</p>	<p>(1) 「持続可能な教員力」の育成 新しい学習指導要領に基づく教授方法や観点別評価などへの対応を行うとともに、今後AI化の進行など社会の変革に伴う教育課題の変化にも対応できるような、継続的に自ら教育課題と向き合い学ぶ教員力を育成する。</p> <p>(2) 「教職員の長時間勤務の縮減」 一斉退庁日や部活動休養日を実施し、時間外勤務縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p>	<p>(1) 教員から研修テーマを募集し、企画・運営を行う校内研修1回以上。 様々な教育課題について情報提供する「校長インフォ」を月1回以上発行する。</p> <p>(2) 時間外労働時間において月80時間超教員0人。 [1人]</p>	<p>(1) 保健部・養護教諭が中心となり、救急救命講習を実施。 「コグトレ」に関わる研修を実施。課題を抱えた生徒への対応について学んだ。 「校長インフォ」を毎月発行。年間で27回。 (◎)</p> <p>(2) 定時退庁日を水曜日に設定。定着してきている。 時間外労働時間については、月80時間超教員が2名出てしまった。一層の業務の効率化が必要。 (△)</p>